

仙人通信 145 冷山(2133m)

冷山(ツベタ山/レイザン)は、天狗岳と麦草峠を結ぶ西側に分布する新八ヶ岳溶岩形成期4期の噴出物で構成された山で、和田峠・麦草峠と並んで縄文時代を担う『黒曜石』が採取された地でもある。(因みにここの黒曜石は、静岡や関東一円の供給拠点でもあった)

冷山への登山コースは、麦草峠と奥蓼科温泉の渋の湯を結ぶルートであるが、麦草峠側からは倒木等が多く未整備と手元の地図にあることから、標高1800mにある渋の湯からのピストンを計画した。

渋の湯の有料駐車場を借りるため、宿に行きコースの入り口を尋ねると「堰堤の上からだ、山頂の位置はよく判らないよ。渋の湯からは年数人が登る程度だ。」と教えられた。

小さな神社の先の小屋に登山計画書を提出し、堰堤の横の鉄橋を渡る高見石へのコースと別れ、沢沿いを進む。沢には天狗岳等の噴火に伴う安山岩が沢水に洗われ綺麗である。

沢沿いには、アザミ・ムシトリナデシコ・フウロ・ハハコグサが目につく。大きな看板が設置されており、近くで眺めると営林所の物で、登山口を示すものではなく残念だ。周囲を眺めるとコースを示す赤いテープが木に巻き付けられている以外、登山コースの入口を示す物が無いことから、この標識に従って登る事にした。(地図上ではコルまでの登り1時間)

コースは、直径20~30cmのヤツガタケトウヒの林の中で、視界は良くない。足元では白い小さな胞子を付けたスギゴケやマイズルソウの葉がコースに沿って生え、露岩の多いコースである。沢に水を飲みに来たのだろう鹿の糞と爪痕が目立つ。時折頬の赤いクマゲラが飛び交い鳴く以外小生のカウベルのみで、音の無い世界である。積もったトウヒの枯れ葉に踏み跡を、そしてトウヒの幹に捲かれた赤のテープの目印を探してジグザクの道を登る。

50分程登ると、諏訪側の木々の間にかすかな青空が現れ山頂が近い事が判る。足元ではシャクナゲの木が目立つようになる。更に5分程登ると、黄色い鉄のポールと渋の湯/狭霧荘を示す白い道標だ。コースの右手をよく見ると、廃道(丸山コース)となった痕跡があり、この地点が冷山のコルのようだ。地図から山頂は、西側30m程の所のようなので、山頂への踏み跡を探し、注意しながら進む。トウヒの木々・背丈程のシャクナゲそして1m程の溶岩が敷き詰められたコースである。溶岩には樅の葉に似た黄色い平らなダチョウゴケ・白いサンゴに似たサンゴゴケ・杉の葉に似たタチハイゴケ・カズラが覆う。その間に赤い実を付けたコケモモやゴゼンタチバナそして10mmに満たないシラタマノキの可愛い白い花だ。

10分程歩いたろうか渋の湯と麦草峠を示す正規の道標だ。更に15分程進んだが、山頂に向かう踏み跡は無く、徐々に下降が感じられたので、折り返す事にした3時間30分の山旅でした。山頂直下に大きな黒曜石の原石が有るとの事であるが確認できず残念。(h28. 8.26)

スタート地のオトコエシ



山頂周囲



山頂を示す表示？

